

令和元年度 第1回長井市振興審議会 議事録

開催日時：令和元年11月27日（水） 15時00分～17時00分

開催場所：保健センター 研修室Ⅰ、Ⅱ

出席者：26名（委員12名、事務局14名）

■振興審議会委員 北川忠明会長、遠藤倫夫委員、齋藤裕之委員、蒲生直樹委員、小関幸一委員、神田忠正委員、加藤幸子委員、齋藤道郎委員、梅津雄治委員、梅村律子委員、長沼真知子委員、平吹登委員
（出席12名、欠席6名）

■事務局 遠藤健司副市長 齋藤環樹統括監、藁谷尊産業戦略監、竹田利弘総務参事、小関浩幸厚生参事、横山照康産業振興参事、青木邦博建設参事、桐生芳弘教育参事、近藤智規総務課長
総合政策課 佐藤裕子総合政策課補佐、井上弘美総合戦略室係長、平宗正主任、安部惇土主任、渡部聡主任

傍聴者：なし

【次第】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）
- 3 あいさつ
- 4 協 議
 - （1）長井市振興審議会について（資料1）
 - （2）総合計画について（資料2）
 - ①総合計画と進行管理の仕組みについて
 - ②前期基本計画の取組みについて
 - （3）第五次総合計画の進行管理について（資料3）
 - ①平成30年度事業の行政評価について
 - （4）その他
- 5 その他
- 6 閉 会

【議事録】

- 1 開 会
- 2 長井市振興審議会委員の任命（新任委員）

副市長から新任委員3名へ委嘱状を交付した。

3 あいさつ

○遠藤健司 副市長

内谷市長が所用のため出席できないため、代わりにご挨拶申し上げます。本日は大変お忙しいところご出席賜り感謝申し上げます。また、皆様には日頃から市政運営にご理解とご協力をいただいております。重ねて感謝申し上げます。ただいまご委嘱申し上げた委員には、活発なご意見をいただきたい。

昨年の振興審議会では後期基本計画の策定を行い、皆様のご意見を伺いながら、子育ての魅力アップ、まちなかの魅力アップ、働く魅力アップを重点に掲げ、若者や子育て世代の定着を横軸に後期基本計画を進めているところ。

今年の振興審議会は、平成 30 年の事務事業の評価を申し上げる。各課の事業について PDCA サイクルを回しているが、本日は PDCA の C のところで忌憚のない意見をいただきたい。

今年も終わるが大型災害が記憶に残っている。長井市でも、台風 19 号の際には 400 人を超える大規模な避難行動を行った。その中で長井市が市民の安全のために何を努力できるのかを考えていきたい。昨日も国連では二酸化炭素の排出量の増加が加速している指摘があった。私たちの周りにも SDGs の考え方は浸透しつつあるが、温暖化、エネルギー、安全安心なまちづくりというのは世界共通だと考える。

現在は人口減少対策として第 2 期総合戦略の策定を行っている。人口減少のスピードを抑えつつ、より良い地域づくりを行っていくための計画になっている。人口減少の傾向は 20 年 30 年の長いスパンで考えなければいけないが、毎年度新しい情報と視点をもって、行政と市民で協力して行っていきたい。

○北川忠明 振興審議会长

昨年度は後期基本計画の審議にご協力いただき感謝申し上げます。

私事だが、3 月をもって山形大学を退職することになった。長井市にはあたたかく受け入れていただき感謝している。4 月から大学で仕事をしている。

平成の 30 年間を見ると、冷戦が終わり、バブルがはじけてから、数字の上では GDP 等もほとんど変わっていない。副市長からもあったが、少子化も深刻で「無子高齢化」ともいわれている。気候変動も大きな問題になっているが、昭和の前半に比べるとはるかに良い時代であり、豊かなインフラ環境で快適に生活できている。特に山形県は安全性の面では日本でトップクラスである。

これらの子や孫の世代にどう伝えていくのかが課題だと感じているので、そういった視点から皆さんのお知恵をお借りしたい。

4 協 議 [座長＝北川会長]

- (1) 長井市振興審議会について
- (2) 総合計画について

資料 1、資料 2 に沿って、事務局から説明。

(委員)

公共施設の整備について財政負担を抑えるとあるが、急激に人口が減り地方交付税も減っていくと思うが、財政負担を減らす根拠となる公債費比率などを教えていただきたい。

(事務局)

趣旨としては、一般財源だけでなく国の支援を受けるというもの。市庁舎については 4、5 種類の国の交付金を入れており、防災に関するものやコミュニティに関するものなど様々な支援を受けている。これから建てる病院にも国交省の補助金などを充てることとしている。公共複合施設整備についても同様に様々な支援を活用しながら進める予定である。

財政状況については市報やあやめ repo 等で示しているので確認いただきたい。

(事務局)

参考資料 4 に記載している平成 30 年度の公債費の実質的な負担額は目標を達成している。実質公債費率は 11.3% であり、長井市が最も苦しかった時代では 27.7% であった。

今後の公共施設の建設においても、一時的には公債費が増えるが、国の支援が入るように進めおり、実質的な負担は一定割合を下るように計画している。今後も数値目標として設定しているので、毎年の実績についても示していきたい。

(委員)

表にしてもらったが非常にわかりにくい。誰が見ても一目でわかるように示してほしい。

(座長)

財政状況の示し方については今後も検討していただくということによろしいか。

(3) 第五次総合計画の進行管理について

資料3、参考資料1、参考資料4に沿って、事務局から説明。

(委員)

説明の中に市営バスが改善されたと聞いたが、私は高齢者交通安全指導員になっているが、市営バスを抜本的に見直ししてほしい。ミニデイの足の確保が課題としてよく聞くと、現状では運転できなくなったら社会福祉協議会の送迎バス付のサロンに通うしかなくなり、慣れ親しんだ地元のコミュニティには入れなくなってしまう。ミニデイへの交通手段としての役割を市営バスが担えないか。

また、高齢者の交通事故が社会問題になっている。市営バスで通院するには、行くのには良いが、帰りが不便との声を聞く。

今すぐとはいかないと思うが、市営バスの効率的な運営について、各地区に6台のバスと運転手を配置して、コミセンが主体となって適切な運用ができるようにしてほしいとの意見をいただいている。

(事務局)

市営バスについては様々な意見をいただいている。提案内容を担当課に伝達する。Society5.0という最新技術を活用する方法もあるので幅広く検討していきたい。

(座長)

市民の声、近隣の住民の目線で意見をいただけるとありがたい。

(委員)

行政評価結果について2次評価グラフも示していただきたい。また、数字で測れるものだけでなく、まちなかのにぎわいなど主観的な評価もあるかと思うので、内部だけでなく外部の評価も入れてほしい。

(事務局)

2次評価については今後の方向性のみの評価としている。1次評価で行っているような評価結果については2次評価では行っていない。

(委員)

4-1の評価と4-2に評価が違っているのはなぜか。

(事務局)

4-1と4-2のどちらも1次評価になる。4-1は成果指標の達成状況による評価で、4-2は事業全体を見ての評価としている。本来であれば、成果指標で事業全体の評価ができればいいのだが、かみ合わない結果も出ているので、後期基本計画においては成果指標の見直しを含めて検討しているところ。

(事務局)

できるだけ客観的な指標を置きたいと努力しているが、どうしても設定できないところがある。後期の見直しが必要だと感じている。外部の意見については、この振興審議会でもいただきたい。

(委員)

本会議が、平吹委員からあったような内部の評価と市民の評価の齟齬を埋めていく場だと理解した。

(座長)

計画策定の段階から評価については議論していた。客観的な指標を設定するのは非常に難しいので、

行政の事業をまとめていただいているので、この振興審議会の方でご意見をいただきたい。

（委員）

資料２に記載されている「早期国語教育、英語教育」の評価は行政評価シートのどこに記載されているか。また、行政評価結果では縮小との評価が０％で予算や人員を増やす事業が多いようだが、人口減少の中で可能なのか。

（事務局）

資料２についてはイメージがつきやすいようにと写真などを使って示したものである。早期国語教育、英語教育については、参考資料４の２②（１）５の２において、国語力向上事業と英語力向上事業がそれに該当する。

（事務局）

あくまでも予算と人員を増やすのは重点化であって、改善実施には、縮小の方向性も踏まえた見直しの意味もある。

（委員）

長井市には人口減少を食い止め、産業の活性化に進んでほしいと思っている。それらに向かって各部署で頑張っていると感じているが、各事業のその先にあるところの評価はどうなっているか。例えば、定住促進のための体験ハウスの利用率を見ると平成３０年度は７件で未達成となっているが、そのすべてが移住したのならそれは大きな成果ではないか。そのような大きな効果についてもシートの中に入れていただきたい。

（事務局）

行政評価シートを本格的に導入したのは第五次総合計画からであり、まだ試行錯誤の段階。先を見据えてという点では、基本構想の目指す姿に向かっていく中で、大きな視点で振り返りを行っていくことを今後検討していきたい。

（事務局）

皆様から、評価方法についてご意見をいただいている。まずは原課で自ら評価させており、それを副市長以下で２日半かけて調整している。何が課題で何が成果なのかは各課に示しているが、シートには反映できていないので工夫していきたい。

市の限られた予算と人員でどう配分するかについては、総合計画の実現に向けてできるものを実施しているという状況。

平吹委員からの意見もあったが、市営バスについても様々な意見をいただいている。市庁舎の新築に合わせて再編することを検討している。

（座長）

評価の在り方については難しいと思う。各事業に関する意見をいただきたい。

（委員）

後期計画について、地域づくり支援として地区長の負担増や担い手不足が問題になっている。少子高齢化も著しく、地区再編まったなしだと感じている。具体的なことはこれから検討委員会で話していくが、地区再編についても重点項目に入れていただきたい。

（事務局）

市のほうでも状況を把握しているので、今後反映させていきたい。地区ごとに戸数のバラツキもある中で大変になっていると感じる。また、男女共同参画社会の検討会議では、女性の地区長がいないのも変だとの意見があった。世代や性差を超えた地区の在り方も考えたい。

（委員）

推薦されることが多いので、男が中心になっていると思う。それよりも、子ども会も消滅している

ところもあるので、地区を大きくまとめていってほしいと思っている。

（事務局）

多様な市民が介入しないと地区は生き残れないとの意見であった。

（委員）

コミュニティについて、買物弱者のためにコミセンで朝市などを催したりできないか。

2点目に、人材育成について、市職員の一定の能力レベルの保持が必要だと思う。置賜地域で研修所を設け、広域的にカリキュラムを組んでいくことはできないか。

また、地区長会の中で総合計画を周知して認知度を上げてほしい。

（事務局）

買物弱者向けの朝市は、致芳地区で県の補助を得ながら実践している。結果を検証して他のコミセンでもできないか検討していきたい。

地区長会での周知については前向きに検討したい。

（事務局）

職員研修の連携についてだが、すでに置賜と県でまとまってる研修を行っている。東北や全国でも行われており、相当数の職員が参加している。置賜においては初任者向けや法制執務について合同で行っており派遣している。

（座長）

密度の濃いご意見をいただき感謝する。時間も迫っているので、他にご意見お持ちの方は、後で事務局へお願いする。

（４） その他

（委員）

資料の見方を確認したい。参考資料４の読み方として、たとえば、学校教育課の小学校の教育用コンピュータ整備事業における目標数値、実績数値は、年度ごとの数値か、累計か。予算は台数が増えていても減っていたりする。どういうことか。

（事務局）

細かい内容については現在資料の持ち合わせがないため、確認させていただきたい。

（座長）

行政評価シートについて、あくまでも参考であり、詳細な中身は担当課じゃないとわからないだろう。

（事務局）

教育用コンピュータ整備事業について補足する。レンタルしているものであり、170台から199台になっているのは、足りない分を追加したものである。予算額・決算額についてはリース費用である。

（座長）

貴重なご意見いただき感謝する。４の協議については以上とする。

５ その他

事務局より、第２期総合戦略について報告。

６ 閉 会